



高松城復元かわら版

玉藻城

平成31年1月発行

● 10万人目は神奈川のご夫婦に

2016年8月よりスタートした高松城の復元を求める署名活動。昨年6月17日、外気温30度を越す暑さの中、玉藻公園西門で行われていた署名活動において、事業開始から1年10ヶ月という短期間でついに目標の10万人を迎えました。



セレモニーで
記念品を
受け取る
谷亀夫妻→

記念すべき10万人目となられたのは、神奈川から高松市にご旅行に来られていた谷亀さんご夫妻の奥さまの祐子さん(58歳)。何も知らずに快く署名用紙にご記名されたと同時に、突然多くのカメラとマイクに取り囲まれかなり驚いておられた様子でしたが、炎天下の中、直後のセレモニーにもご協力頂きました。記念セレモニーでは当会古川理事長より、

記念品として高松城管理事務所からのご厚意による高松城のミニチュア模型やTシャツなどが贈られました。

谷亀さんご夫妻はお城好きなので今回高松を訪れたのを機にお城に足を運ばれたそうで「一生の運気を使い果たしたくらい驚きました」と奥様が笑顔でコメントされていました。

当初計画案では控えめに3万人目標だったところ、総会で会員からの前向きなご意見で「ここは大きく目標10万！」と意気揚々スタートしたこの署名活動事業。市内での各イベントや週末の度にお城の入り口で当会会員をはじめ学生ボランティアなどの多くの方々が地道に、でも着実に署名を積み上げたことでめでたく目標到達ができました。この10万人という目に見える追い風は、天守復元に向けて当会の活動をさらに後押しするに違いありません。



会員・役員による
玉藻公園での
署名活動→



● 古川理事長 新年ご挨拶

～署名達成から 復元へ向け大きな前進へ～

新年あけましておめでとうございます。日頃は、当会の活動に会員皆様をはじめ多くの方々のご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、天守復元へ向けた署名活動は、開始からわずか1年半あまりで目標数の10万人を達成できました。これも諸団体や市議会の先生方のご協力のもとより、地道な活動を支えて頂いた会員皆様の熱意の賜物であります。過去に多くの団体がこの天守復元への提言や取り組みを行って参りましたが、ここまで市民の力を実際に結集させ、具体的な成果を達成できたのは当会がはじめての快挙でありましょう。

高松市長への署名提出後の8月には、大西市長と帯同し、文化庁へ伺い、市民の大きな想いを伝えました。それを受け11月には文化庁から「城の天守を復元する場合の基準の在

り方を話し合う有識者による作業部会」を立ち上げた、と新聞で報道がありました。これにより、高松城をはじめ名古屋城や松前城などを想定しての再建基準の中味が議論されることとなり、私たちが取り組んできた署名活動は、市民の声をひとつに集めることで、今まで頑なであった国の方針転換を引き出す大きな力となったことを実感いたしました。

このまたとない追い風を背に、今年は更なる一歩を目指して参ります。何卒本年も引き続き皆様のご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



● 大阪城 視察研修

「高松城復元市民の会」に入会して間もない私ですが、大阪城見学の機会を得て、少しでも城郭の知識を広げたく参加させていただきました。

大阪城は何十年か前に行ったことがある程度で、大阪といえば大阪城というあまりにも有名でいつでも行けるという気持から、逆に敢て行く機会もなく「近きにおいて、遠きもの」の存在でした。ガイドさん話で、やはり普通の城とは全く異なる「天下人の城」の実感が迫ってきました。

まずは、石垣です。過去には大阪城の築城に小豆島から石を運んだという話は聞きましたが、想像を絶するような大きな石塊を各地から運ばれてきたわけですが、今これを見るにつけどのようにして運んだのだろうか、コロを並べて押すか引くかして移動した、とのことですが、その石を切りだして、どのようにして山から下ろし、コロに載せたのか、どのようにして石垣に整然と積み重ねたのか、積み方にしても崩れを防ぐために、交互に置き曲線にしている。昨年、震災後の熊本城を見ました。石垣の積み方は同じでしたが、当時の築城技術の凄さには感嘆のほかありません。



群雄割拠の戦国時代の人海戦術で人命などいとわれない時代の産物かもしれませんが・・・。
天守閣にしても修復した徳川家康らしく豪華なものでした。姫路城の美しさとは異なった戦国時代にふさわしく、しかも美しい城であると感じました。

昨年、織田信長の居城であった安土城跡を見に行きましたが、山の頂上にあって登城の途中の石段道の両脇に徳川家康、羽柴秀吉等の重鎮の居宅跡の石垣塀、墓石を使った石段とか、天守閣のモニュメント等を見ましたが、これとても戦国時代の他に類を見ない城跡であると感じました。



さて、我に返って、高松人として高松に来る客人を案内するとなると、まず栗林公園、こんぴらさん、屋島となり高松城の玉藻公園へは殆ど声をかけません。讃岐国では、歴史に残る勇猛な戦いがあったわけでもなく、天下に名高い名将が居たわけでもないのですから、「高松城復元の会」で学びましたように、瀬戸内海に面し、海水を引き込んだ三大水城の一つであること、重要文化財である披雲閣と庭園等を特徴とした高松城、とりわけ南蛮造りといわれる天守閣の復元を切に願うものであります。

最後に、見学のお世話をされた方々に厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

(久保 仁)



● 秋の講演会

「高松城天守は歴史の最高到達点～」

去る11月23日（土）香川県民ホール（レグザムホール）において、秋の講演会が約170人余の皆さんが集まり開催されました。オープニングではクラウンレコードの成世昌平が歌う「高松城」に合わせて、天羽会桐流家元の桐魁佑師匠の気迫に満ちた舞いが披露され、華々しく幕を開けました。

今年は講師として、5年振りに広島大学名誉教授の三浦正幸先生をお迎えし、高松城は当時の建築技術上どれほど素晴らしかったかなどの解説をいただき、数ある天守の中でも最高到達点であり、天守の三方向がすべてお堀りに接する全国唯一の特徴や、3層なれども容積は姫路城に並ぶほど巨大な天守であったこと、またその学術的な価値をわかり易くご説明いただきました。

さらに、今後の復元に際してのコストについても踏み込んだお話がありました。生駒氏は材料に拘らなかったと思われ発掘された礎石跡から見ても、後の松平氏の時代に地階につかえ柱を4本立てて一階床を支える梁を補強せねばな

らなかつたことなどから、檜（ひのき）でも無節のものなど使わずにいたはずであり、だとすればローコストなものを使用すれば、内装品や付帯設備を外したスケルトンな建物部分だけで約40数億円で再建可能、と言及されました。それも、城の様式技術の最高到達点である高松城ならば、その多くを広く全国からの寄付などでかなりの部分を賄えるでしょう、との明るい展望の開けるお話でした。

質疑応答では、11月に文化庁が天守再建の基準を再検討する委員会が作られたことに触れられ、その議論の行方によっては、高松城天守の復元は今後10年前後で着工可能でしょう、と復元への時間にも言及いただきました。

（中條慎也）



桐魁佑師匠



三浦正幸先生



● 市長に署名提出

署名が目標の10万人を達成したことを受け、6月28日、古川理事長をはじめ当会理事・会員ら20数名が真新しい高松市防災合同庁舎を訪れ、大西秀人高松市長に対して高松城の天守閣復元を求める10万人署名と陳情書を提出しました。大西市長からも「天守復元に対する熱意を頂いており、10万人署名という心強い後押しを、しっかり文化庁に届けたい。」とコメントされました。

それを受け8月には、大西市長と古川理事長が文化庁に出向き、



天守閣復元を望む声を直接伝えて参りました。天守閣の復元は、インバウンドをはじめ観光客を国内外から呼び込めるうえ、地域経済としても大きな波及効果が期待できるとことを説明し、国の前向きな理解を求めて参りました。

● 昨年の活動実績

- 1月26日（金） かわら版第6号発送
- 3月23日 理事・運営委員会（丸亀町）
- 4月21日 理事会（丸亀町）
- 5月19日 総会（まなびCAN）
- 6月12日 理事・運営委員会（丸亀町）
- 6月17日 10万人達成セレモニー（西門）
- 6月28日 市長へ署名・陳情書提出
- 7月 1日 大阪城視察研修
- 8月 7日 理事・運営委員会（二蝶）
- 8月21日 市長・理事長 文化庁陳情訪問
- 10月 2日 理事・運営委員会（丸亀町）
- 11月 6日 理事・運営委員会（丸亀町）
- 11月23日 秋の講演会（県民ホール 玉藻）

※ 昨年6月まで10万人署名達成に向け、石清尾八幡神社でのイベントや、土・日・祝祭日には玉藻公園において延べ9回にわたり署名活動を実施。

●コラム 玉藻城のひみつ vol.6

「砂上の楼閣にツーバイフォー建築」

いくら吉凶の地脈が良く要塞に向いていたとしても、わざわざ川を付け替えてその址に城を造り町を整備するとは、現代人からすれば空前絶後の都市構想。記録ではそれをたった三年で完成したとされていますから、機械重機の無い時代ではミラクルです。他の地域の城もごく短期間でできていることから見ても、戦国の世の労働員力のすごさには驚愕します。

峰山（紫雲山）を挟んで東西に分岐していた川を西側のみに流れを替えても、そこに出来る新たな土地は元々河口であったため堆積した砂地を主とする軟弱な地盤です。そこに大きな石垣を積み上げその上に大きな天守を造るとなると、地上構造物の重さゆえに地盤沈下が懸念されることは想像に容易です。

同じく生駒氏が治めた支城の丸亀城は、現存する日本最小天守ですが、名石工と言われた羽坂重三郎が造った「扇の勾配」と言われる優美な曲線を持つ日本一の総高（地盤と石垣の合計高さ）を有する石垣で有名であることから、生駒氏は石垣に特段の秀でた技法を保有する武将であったと推測されます。

平成18年（2006年）、痛みが激しかった石垣修復事業行われ、約9千個の石に番号を付け解体。砂上の楼閣を支えた秘密が解き明かされる時を得ました。解体調査の結果、天守閣を支えていた柱の受けとなる礎石は「田」の字状にほぼ等間隔に58個が配置され、上にそびえた天守は東西6間（11.82m）、南北5間（9.58m）で、1.97mを一間と換算していたと判明しました。その寸法を基準に建物を造る技術は、現代のツーバイフォー工法と着想はほぼ同じです。あらかじめ決めた寸法の倍数の組み合わせで木造部分作れば、現地で寸法をいちいち合わせずとも組み立てやすい。だ

から築城が早かったと思われま

から築城が早かったと思われま

更に天守台の解体を進め出てきたものは・・・土砂累々。掘れども特段の工夫は見られません。その土砂の層にはズレが見られ、石垣内部が崩れかかっていた前兆も判明しました。

そして掘った最下層からは、多くの人骨も出てきました。これは同じ層から出てきた土器や石類から見て、築城前にここにあった無量寿院と言う寺の基地部分の残留物と推測されます。残留物とは言え人骨を土砂と一緒に扱うなど、戦国武将の意外に不信心な一面です。中には墓塔と思われる五輪塔の石が、石垣の隙間を埋める栗石（ぐりいし）に使われており、あるものは何でも利用するほどに築城を相当に急いだ様子が窺え知れます。他の城でも墓石などを石垣に流用することは間々あるそうで、戦国の世だけに築城はどこも基本は突貫工事だったのでしょう。

何の工夫も無い砂上の城。更に突貫工事……。まさか遙か未来になってその粗を暴かれるとは思わなかったでしょうが、高松の東にある五剣山の頭頂部が崩れた宝永4年の大地震や昭和21年の南海地震でも崩れなかったのは不思議です。

天守台は上に天守閣が張り出していたので、石垣内の土塁部分に雨水が侵入せずに加重を支え続けられたのかもかもしれません。とすれば、現在天守の無い石垣では、再び雨水浸食されます。石垣と天守はセットでこそ何百年間も持つのです。（柘植 敏秀）

● 高松城の復元活動にご賛同頂いている法人会員

（公財）松平公益会、（宗）石清尾八幡神社、高松市婦人団体連絡協議会、高松市茶華道協会、高松市大工町自治会、玉藻公園（指定管理者：香川県造園事業協同組合）、高松丸亀町商店街振興組合、高松市観光ボランティアガイド協会、（公）高松青年会議所、（株）香川経済レポート社、香川証券、（株）喜代美山荘、ネットヨタ高松（株）、（株）二蝶、（株）アムロン、（株）菅組、三喜工事（株）、高松帝酸（株）、（株）香西工務店、高松商運（株）、久米加（株）、（株）森造園、（株）ネクサス、高尾石材（株）、四国興業（株）、大塚整形外科医院、（有）富岡建築研究所、（株）安藤・間四国支店、後藤設備工業（株）、魚夏、（株）西部広告社、三条山下内科医院、（株）オーディオサミット、小手毬、角田米穀店、湊海運（株）、（株）西崎組、（株）ツゲ炭酸工業、（株）EBiSU、日本舞踊藤間流「勘雅智枝会」、（株）朝日段ボール、（有）折鶴（居酒屋 渋谷衛門）、ハウス美装工業（株）、高松シティホテル、（株）フェアリーテイル、（株）HERMIT（順不同）

【協賛団体】高松商工会議所、高松観光コンベンションビューロー、高松玉藻ライオンズクラブ、香川経済同友会（順不同）

特定非営利活動法人 高松城の復元を進める市民の会

（事務局）〒760-0029 高松市丸亀町13番地2（高松丸亀町商店街振興組合内）

TEL：087-823-0001 FAX：087-823-0730

<http://www.takamatsujyo.jp/>

新規会員募集 【年会費】個人2,000円（一口）法人10,000円（一口）

申し込みはHPのトップページ上部右横の「入会申し込み・お問い合わせ」のバナーから